

産科医療補償制度 第 93 回原因分析委員会 議事要旨

日時：2020年1月16日（木） 17時00分～18時50分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、北田淳子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、
前田津紀夫、馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況について

○2019年12月末時点で累計2,527件の原因分析報告書が承認されたことや、報告書作成の迅速化・効率化の取組みにより2019年12月末時点の報告書の未送付件数が395件に減少し、報告書の作成期間を所期の目標である概ね1年に近づいていること等が報告された。

2) 原因分析報告書全文版（マスキング版）の開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書全文版（マスキング版）について、前回の原因分析委員会での報告以降、新たに1件の利用申請を受理し、開示方法を変更した2019年11月以降2019年12月末までに9件の利用申請で延べ1,161事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 原因分析報告書要約版の公表状況について

○原因分析報告書要約版は、保護者や分娩機関等に対し公表についての意思確認を行い、不同意の意思表示があった事例を除いて、順次、本制度ホームページで公表されるが、2019年12月末時点で1,846事例の要約版が公表されていること等が報告された。

4) 原因分析報告書の改定等について

○前回までの原因分析委員会で承認された、「事例の概要」から「事例の経過」への変更、および「臨床経過に関する医学的評価」における評価レベルと表現の改定に関し、実施スケジュールや改定に伴うツール・帳票類の主な変更内容等が報告された。

5) 「別紙（要望書）」対応について

○2019年12月末までに92件の「別紙（要望書）」対応^(※1)が実施されたこと、改善を求めた項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多かったこと等が報告された。

○「別紙（要望書）」対応における改善取組みの実効性を高めるため、分娩機関の改善取組みを医会が支援するスキームを2020年4月より実施すること、助産師会についても同様のスキーム構築に向け検討を進めていることを報告した。

(※1) 同一分娩機関において複数事案目の事例が発生し、原因分析でも、これまでと同様の指摘が行われ、改善がみられない、または、同じような事例の発生が繰り返されるおそれがあると原因分析委員会が判断した場合、該当の分娩機関に対し「別紙（要望書）」を送付し、改善取組みとその報告を求めている。

以上